ふれあいのひろば
かわら版
平成26年11月　発行
上平間第二町会
編集責任者
茂木久夫
印刷所　長谷川印刷㈲

敬老会

上平間第二町会恒例の敬老会が、九月十五日、平間中学校で開催されました。昨年は、台風十八号の為、残念ながら中止となり、二年振りの開催となりました。町会では、九十五歳と米寿（八十八歳）を表彰しております。今年は米寿の方が、五名出席されました。

来賓には、田中和徳衆議院議員を始め、川崎市会議員、平間中学井上校長先生、近隣クラブ会長、民生委員を迎えて開催されました。秋元町会長の挨拶に始まり、下河原小学校紺野校長先生と生徒さんの、お祝いの言葉と米寿表彰者に花束が贈呈されました。

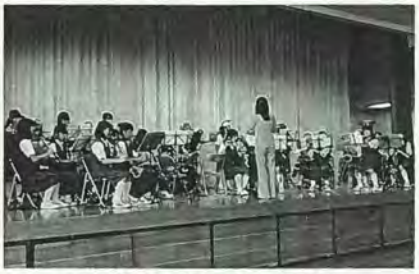
（申込み一五三名、出席者一二六名、その他理事、役員）

下河原小学校生徒さんから、祝福の手紙を全員に頂きました。続いて、来賓の方々からご祝辞を頂いた後、山上会長参与の発声で「敬老会万歳」を三唱して式典を終了しました。

森第二会長顧問による乾杯の音頭で、第二部の演芸に入りました。先ず町会役員による花笠音頭で幕を開け、市内屈指の平間中学ブラスバンドの演奏、フラダンスの「E・AROHAE」、「花は咲く」、ゆりの会の「ボケない音頭」「まんまるワルツ」に続いて、老人クラブの「瀬戸の花嫁」「星影のワルツ」は歌詞を配布し全員で合唱し、二年ぶりの仲間との談笑に、花を咲かせておりました。加藤青少年部長の閉会の辞で、盛会裡に散会致しました。

お祝いの言葉

ゆりの会の踊り


平間中学ブラスバンドの演奏

思い出のコーナー
戦中戦後の食糧難の頃

高山　房子

昭和三年生まれの私は九月で八十六歳になりました。東京生まれの東京育ち、小学校に入った年に日中戦争が始まり女学校に入った年に第二次世界大戦が起き、五年制を四年生で卒業した夏に日本の敗戦で戦争は終りました。

戦中戦後、想像もつかない食糧難、今思うと子供から大人になり、社会へとつなぐ人生の中で満足な食べ物も、着る物も無い無いづくしの青春が過ぎたように思います。

終戦をはさんだ当時お米は殆んど手に入らず甘味の無い大きいばかりのさつま芋が毎日の食卓に上りました。わづかな家庭菜園の小松菜等がおひたしで頂くのが大事な野菜でした。それで、必要に迫られ買い出しと云っても今の方々にはわからないかも知れませんが、近県の地方へ食糧を求めて手縫いのリュックサックを背負い席も空いてない列車の通路にしゃがみ込んで親のお供をして出かけました。いわゆる闇の食品を農家へ行って売って貰うのです。お米も野菜もうどん等もありましたから、十七、八歳の私でも八キロ位の物を背負って帰って来ました。

忘れられないのは、東北本線、栗橋、利根川を渡ってすぐの駅です。そこへ降りて食糧を買い、帰りはそのまま列車に乗ったり、利根川の橋を渡ると警官が見張って居て荷物を全部没収されてしまうので鉄橋を渡って帰るのです。当時は新幹線も特急も急行すらありませんでしたし、列車は一時間か二時間に一本という状態で、鉄橋を渡る十分か二十分位の間に事故に遭う心配はなく、ただ線路中央の巾五十糎程の木道は、下は三十米位に利根川の流れ、「私の足だけ見てついていやっしゃい」と母が云うのですが恐ろしくて、ごはんもお芋もいらないからと思いました。

本当に切ない思い出、でもそこを頑張って通り抜けて来て今の自分があるのだなと、大事に生きて行かねばとつくづく思うのです。

三部合同勉強会の実施

防災部長　草薙　貞夫

勉強会の趣旨は、高齢社会、地震災害に関わる知識、ごみ問題など住民にとって関心の高い課題をテーマに、高齢社会部、防災部、衛生部による取組みを説明するもので、役員、理事さん、委員さんを対象に開催しました。

「高齢社会部」

高齢化が進む昨今、独居老人及び弱者所帯の見回りネットワークを構築するため、閉じ籠りや引き籠りなど予防介護を目的に、自宅訪問とかミニディサービスを毎月定例的に行ない、その為には民生委員との連携もしっかり地域の連絡協力員にも委嘱状を交付参画してもらいながらバックアップ体制を取り、定例的に高齢社会対策推進委員会を開き見回り状況報告会等を開催している。

「防災部」

いつ起きても不思議でない地震に対する住民の危機意識が低く、例えば当町会での防災に関するアンケートで九一〇世帯の回答を見ても、「防災知識がありますか」の質問に二二、七％と危険性は知識として分かっているが根拠はないけど自分だけは大丈夫と都合よく考える人が多いと思います。

そこで少しでも意識を喚起してもらうことを考慮に、勉強会では、映像と「地震に備えて」二一ページにわたる冊子で、地震発生のメカニズムや身を守るための手引きのほか、「液状化現象とは」「高波・高潮・津波の違い」など、用語の解説も盛り込んだテーマで、少しでも防災への意識が高まればと話す。

「衛生部」

行政と連携を取り町内の美化、生活環境、廃棄物減量をテーマに、初めに映像で川崎市のごみ処理状況と分別の方法について説明があり、その後参加者からは分別で判断に迷う質問や、不法投棄と収集日以外のごみといった実態の問題など、衛生部としてルールの厳守を徹底、住みよい、きれいな町づくりを構築するためにも、町会として廃棄物減量指導員を委嘱、毎月ごみ、収積所の見回りを行っている状況を説明、少しでも問題の解決に繋がればと衛生部長は話す。

以上、三部の勉強会を通して人とのつながりが増え意識の向上に繋がることを期待するところです。

「アミガサ事件一〇〇年の碑」建立について

織戸　美紀世

二〇一四年九月十三日、上平間・八幡大神境内において、「アミガサ事件一〇〇年の碑」除幕式を行いました。

これは、一九一四年のアミガサ事件から一〇〇年目を記念して建立したものです。

当時、数百年の間にわたって、暴れ川・多摩川が氾濫し、住民が難儀していました。明治四十三年（一九一〇年）の大洪水は関東一円海と化したといわれています。大正三年（一九一四年）九月十六日、多摩川の築堤を願った下沼部、中丸子、上平間、鹿島田、近郷近在から二百数十人の人たちが深夜二時頃、八幡大神に集合し、アミガサ（チョンポリガサ）をかぶって県庁に直訴に行ったことを「アミガサ事件」といいます。

当時の県知事は、代表者とは会ったがよい返事はなく、事件から三日後に「築堤同盟」が結成されました。その数年後に県知事に就任した有吉忠一氏は、郡道をかさ上げし代用堤防を建設しました。その代用堤防は、有吉元知事をたたえて、有吉堤として今に伝わっています。

その後、今の永久堤防ができ、それ以来今日に至るまで、この地区は大洪水に見舞われる事がなくなりました。一〇〇年前に多くの人が、県に直訴したおかげで、今日の我々が安泰に暮らせるようになりました。このことを忘れず、後世に伝えていくために私たちは記念碑を建立いたしました。

二〇一三年三月、たまたま資料を整理していたところ、二〇一四年九月十六日が事件から一〇〇年だと気づきました。織戸組の社長である織戸一郎氏に相談したところ、碑の建立に向けて皆さんの協力を仰いだらどうかという話になり、さっそく十六名の実行委員を集め、四月に第一回目の会合を開き、その後、月に一度の会合をもつようになりました。

二〇一三年八月には、記念碑の規模などを決め、㈱宮城石材に仮注文をしました。題字は八幡大神宮司にお願いし、「多摩川築堤アミガサ事件一〇〇年の碑」と刻むことに決まりました。

年もかわり二〇一四年一月に発会式を行い、六十有余名の人に参加していただきました。おおよそ二百万円を目標に建立資金を集め始め、二二〇人を超える方々に賛同していただきました。

それにより二〇一四年九月十三日に記念碑の除幕式を行うことができました。

除幕式当日には、百数十名の方が参列してくださり、盛大に行うことができました。除幕の紐は、平間幼稚園の園児八名が引いてくれました。これは、この事件が若い人に語り継がれていってほしい、という、会長・織戸一郎氏の願いから実現したものです。

また、今回の活動の中で、有吉忠一元知事のご子孫である有吉敏氏とご縁ができ、除幕式には敏氏ご夫妻とそのお子様にご参列いただきました。

敏氏には祝辞をいただき、有吉堤ができるいきさつをはじめ、有吉元知事にまつわるエピソードなどを聞かせていただきました。

今回の記念碑建立、そして除幕式にあたり、多くの方のご協力、ご賛同をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

これから私たちは、有吉堤の検証に努力し、中丸子の有吉堤跡地に有吉元知事の検証碑を建立することも検討していきたいと考えています。

☆新涼や築堤百年治水の碑　山田　百合子

☆茜さすあみがさ一〇〇年感謝の碑　茂木　久夫

除幕式

防犯パトロール

縁日パトロール

7月26日(土)と8月16日(土)

平間銀座サマーフェスタのパトロールを実施した。

サマーフェスタ
パトロール

秋の交通安全週間

秋の全国交通安全週間（九月二十一日～二十九日）が行われ第二町会は二十二日から二十四日迄、南部沿線道路を中心に立って交通安全を図った。

凛々しい子供達

夏休み親子エコ教室

七月十三日(日)　午前九時より
文化部　近藤　智子

和やかな雰囲気の中、開催致しました。とりどりの色紙を細く切り、一本の棒に廻りを飛ばす様につけて行き、両手で、クルクル廻すと、花がパッと咲いた如く、見事な出来映え。

クルクルピートロの完成。

ボール紙を円形と四角に切り中を抜き、枠を作り、その上に形の変ったマカロニをそれぞれの好みで並べ接着剤で取り付けて、その上から思い思いの色を吹き付けて乾かす、個々に、素敵な作品の出来上り言葉が出ません。

ペンネフォトフームの完成。

私も、作品造りに挑みました。マカロニの写真入れを完成させ、童心に却って、頑張りました。只今、飾る写真、物色中です。

子供達の、真剣な眼差しと発想豊かな姿勢に、心より感動した次第です。親子共々、自作品を手に、笑を浮かべ満足気な様子、微笑ましい限りです。

親子のふれあいが、此の先、良き想い出と成る事でしょう。

婦人部の皆様、本当にご苦労様でした。来年が、とても、楽しみですね

八幡大神祭礼

町会の四大イベントの一つ、"お祭り"が十月四日～五日に行われました。参加申し込み者、二百五十名、宵宮（四日）は山車を引く子も、近年になく大勢の参加がありました。天気もどうにか持ちましたが、本祭り（五日）は、台風十八号の為、残念ながら山車も神輿も出せずに終わりました。

「台風に勝てぬ大神涙雨」

「担がれぬ神輿が恨む十八号」

山車の太鼓を打つ子供たち

担がれぬ神輿が恨む十八号

俳句　天神台句会

平成二十六年七月～十月

何処にて生まれし波か磯の夏　青木　源司

にわか雨洗濯取り込むビルに虹

晩年の華は咲いたり敬老会

終戦忌霊碑を囲む国の花

舗装道根性アザミに蝶やどる

玄関の火鉢のメダカ波立てず

長十郎その名も遠き梨畑　川部　露子

幾日を生きてや蝉の仰向けに

修羅のごとごさぶり打ちて辺り見る

中秋や唯とめどなき物思い

足もとに涼風立ちて萩こぼる

徒競走園児を先導赤トンボ

身にしむや鏡にうつす後髪　斎藤　正子

金魚飼うなついています尻尾振る

のびのびとのびにのびたりこぼれ萩

平成の児西瓜の皮にかぶりつき

うちの庭京にも負けぬ今日の月　佐藤　輝之

日陰なし顔をしかめて天仰ぐ

素敵な子に席を譲らる梅雨晴間

父母の旅の土産や盆の月

残る蝉まだまだまだといふており

傻笑顔わたしも笑顔蝦蟇

あの一球温めの酒にも癒やされず　滝口　園美

空蝉に生き急ぐなと語りかけ

東の間の鰯雲見て深呼吸

駅降りて十六夜の月道案内

山寺や霧立ちのぼる鐘の音　高山　房子

風はたと止みてゆっくり西陽かな

避けられぬ通院容赦なき夏陽

幾年を手に馴染み来しうちわかな

蛇口から温水の出る酷暑かな

名月や余生は枯れて生きなむと

わだち二本残してしかと草茂る

鎌倉の秋空高し切り通し　山上　正

芋の葉を転がり落ちるにわか雨

空蝉の落ちては風の道連れに

提灯に照らされ照れし盆踊り

狭庭にも萩の葉風の吹き来る

卯の花や声駆け抜けてランドセル

偕老の温かき茶や萩の秋　茂木　久夫

梅雨晴れ間妻が励ます洗濯機

蝸牛雨を唄って塀に地図

笹の葉の願い滋れて天の川

小さき影拾いて歩く炎暑かな

汗涙光らせて去る甲子園

お嚊子で呼出す神と赤とんぼ

噴煙の秋天哀し御嶽山　四津田富美子

メロン持ち赤い車で姪来る

そっと拭く汗にまみれたネックレス

縁日で友と二人のかき氷

十六夜のさそいに乗れぬ暗い道

花火大会　青少年部　加藤秀樹

納涼花火大会が今年も多摩川の河川敷グランドにて開催されましたが打上げ作業は青少年部のメンバーだけでは足りない為、他の部の方の手助けをいただいて行うことが出来ました。苦労をして準備をしていますが、打上げ時間は一時間少々で、あっと言う間に終了してしまいます。花火は毎年、蔵前の上田屋と言う玩具の卸売り専門店へ出向き、花火そのものは毎年同じものがある訳ではなく、新しいタイプのものも入荷してくるので店主と相談しながら決めています。約40種類ほどを購入していますがほとんどが中国で製造されているものと聞いています。

前日までの準備としては、多摩川のグランドの使用許可願いを「納涼会」と称して「中原区役所道路公園センター」へ提出し許可を得ております。花火は購入したものをそのまま打上げるものと「ナイヤガラ」と称して部員が手造りで準備しているものがあります。それと子ども達が楽しみにしているかき氷の用意もあり、毎年婦人部や理事さんにもお手伝いをいただいております。一番気を使うのは当日の天候です。予報雨量0%であれば安心して行えますが、雨の確立が多い時の判断がとても難しいところです。

この花火大会は子ども達がたくさん来てくれて、とても楽しみにしていることがわかります。これからも永く続けて行きたいと思いますが、マンネリ化して飽きられない様、新しいアイデアも出しながら継続して行きたいと考えております。

天神台句会、皆んな揃って

仕掛け花火を見る

花火を楽しむ

思い出のコーナー　松尾芭蕉奥の細道一人旅（その3）

青木　源司

前回は宮城県と山形県の県境である中山峠を越え、山形県の赤倉温泉までの歩きを紹介致しましたが、今回は、ここから象潟あたりまでを紹介させていただきます。

芭蕉は赤倉温泉には泊らず、山刀伐峠を経て尾花沢への路をいそいだそうです。そこで赤倉温泉の人達は芭蕉に手厚いもてなしをし、見送りをしたそうです。今でも温泉街の人達は、街の所々に、俳句の投函箱を設置し、俳諧を楽しんでおりました。

九月三十日、私も赤倉温泉旅館、赤倉で身体を癒やし、翌日早朝に尾花沢に向かって出発しました。丁度出発してから三十日目でした。山刀伐峠は標高約四百七十mあり、今では車で容易に登れます。峠を越えてひたすら歩き、尾花沢市街に辿り着く。なにはともあれ宿を決め、荷物を預けて芭蕉に纏わる史跡を巡ることにした。

芭蕉は紅花の大問屋だった鈴木清風宅と養泉寺に十泊している。尾花沢の中心街に芭蕉の資料館があり、銅像も建てられている。そして、

「涼しさをわが宿にして寝まるなり」

清関の涼みを楽しんでいるあるじ清風の心根の程も偲ばれるこの座敷の涼しさを我が物顔にあるじの好意にまかせ、のうのうと安座する次第である。との感謝の意を詠み与えているのです。またその他には

「眉掃きを紛にして紅の花」

やがては女性の唇をいろどる料となると聞く、最上地方特産の紅花。そう言えばその花の形も、女性が化粧に使う小さな刷毛、あの眉掃きを彷彿と思い浮かべさせる、なまめかしくも侵しい感じを漂わせて咲いている紅花よ、の心を詠まれた句である。

翌日資料館を訪ねましたが、休館日でした。十月一日。紅花で有名な尾花沢を発ち山寺に向かう。芭蕉も尾花沢の鈴木清風に勧められて行く予定はなかったが山寺に向かっている。国道十三号線を出てひたすら歩く。今は稲刈りも終わりに近い。若いカエデの並木道も色づき始め、何処までも続く、村山市に入ると果物の産地、ひときわ目に映えるのが高いサクランボハウスだ。台風二十一号の前ぶれか、大雨の中天童に着く。

「十月二日」駅前ホテルを発ち、山寺に向かう。ここから二km程歩いて通称山寺街道に出る。このルートは殆んどが広大な果樹園であり、リンゴ、梨畑である。この果樹園の中に石倉の芭蕉句碑があると聞くので訪ねてみる。

「眉掃きを紛にして紅の花」の句碑が建てられていた。昔はこの辺りも紅花の産地であったと言う。静かな果樹園を後にし、暫く歩いて山寺にたどり着く。山寺立石寺は、慈覚大師が開いた天台宗の古刹で、比叡山延暦寺にならった根本中堂があり、金山緑の中に堂宇と巨岩が点在する。ひたすら八百余段の石段を登れば奥の院であり、素晴らしい眺望が待っている。ここで一句

「閑さや岩にしみ入る蝉の声」の有名な句碑と芭蕉像が残されている。山寺立石寺を後にし、天童を経て新庄へと向かう。今夜は新庄駅前のホテルに宿をとる。

十月四日、いよいよ最上川の船下りである。芭蕉は新庄市の本郷海から舟に乗り、古口にて乗り換え清川で下船している。私はホテルを早朝に出発し、古口より乗船する。今回はここまでとし、次号は最上川から出羽三山を経て酒田、象潟までをご紹介致します。

象潟の水田に浮かぶ松の島

今年も救急救命講習会を開催

防災部　奈雄　貞夫

去る、九月七日(日)平間中学校体育館において、中原消防署救命士指導による体験学習に四十七名の参加者があり、当日、新しく参加された人や、毎年反復の意味を含めた人達が、中には何度か繰返す人もいれば、スムーズに指導通り行っていた人と皆さん真剣に取り組んでいた。

この活動の目的は心臓や呼吸が突然止まった人の命を救うために、一一九番通報して、救急車が到着までの間の救命処置、つまり心肺蘇生法を行い、AEDも（もし近くにあれば）を使った救護活動である。

一、心臓停止後　約三分で　五〇%死亡

二、呼吸停止後　約一〇分で　五〇%死亡

三、多量出血後　約三〇分で、五〇%死亡

すなわち時間がたてばたつほど生命を救うことが出来ないことがわかります。

その他、気道異物除去と止血法の説明を受ける。

以上受講終了後、市民救命士の講習終了証を参加者全員に配布された。

今回参加されない方も、町会活動の一つでもあり知識として体験することをお進めします。

尚、人の命を守る活動として、他に何時起るかわからない災害に対する防災訓練が、今年十一月二十三日（日）開催することが決まりました。是非、御家族、御近隣お誘いのうえ多くの方が参加されますようお願いいたします。